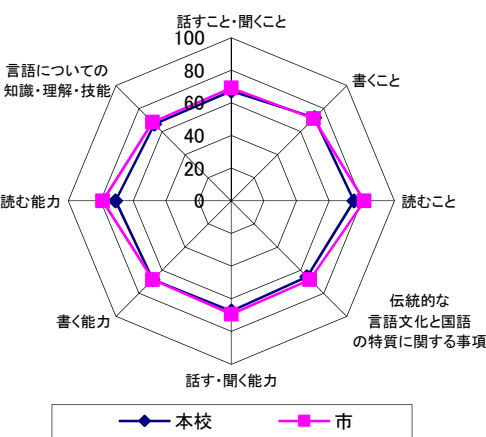


宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	67.4	69.3	73.4
	書くこと	72.1	71.3	74.6
	読むこと	75.2	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.6	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	67.4	69.3	73.4
	書く能力	68.1	68.1	71.7
	読む能力	70.9	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	66.6	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

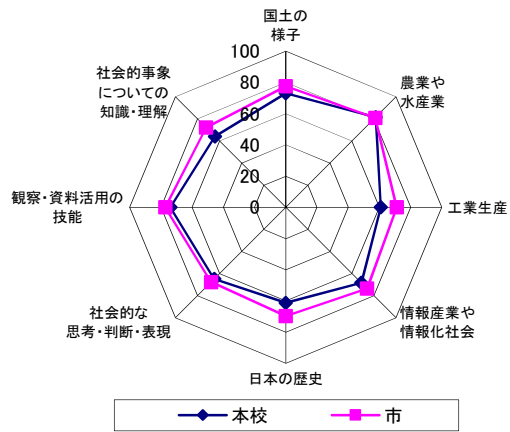
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・市の平均正答率を1.9ポイント下回っている。 ○「話し方の工夫を考えながら、話合いの内容を聞くことができる。」の校内正答率は全て市の正答率を5.6ポイント上回っている。 ●記述式の問題では、正答率は低く、話し手の意図を考えながら、話合いの内容をまとめることが課題と考えられる。	・グループ学習などで、意見を発表したりプレゼンテーションを行ったりするなど、普段から話合いの時間を多く設けている成果が表れていると考えられる。 ・話合い活動では、議論する内容について要旨をまとめて話すよう司会者に指導したり、他者の意見の内容をしっかり受け止めてから自分の意見を述べるよう促したりするなどして、話合いの進め方の工夫を図っていきたい。
書くこと	・市の平均正答率を0.8ポイント上回っている。 ○「指定された長さで文章を書くことができる。」の校内正答率は市の正答率を14.3ポイント上回っている。「2段落構成で文章を書くことができる。」校内正答率は、市の正答率を16ポイント上回っている。 ●「国語辞典の資料を使って、意見文に書く内容を理解することができる。」や「グラフの内容を読み取って、文章に適切に書き表すことができる。」の校内正答率は、市の正答率を下回っている。	・作文力は、すべての設問で市の平均よりとても高く、身に付いていると考えられる。週末に日記等の作文の宿題に取り組ませているが、字数制限を設けてきたことで、指定された長さで文章を書く力も身に付いたと考えられる。引き続き条件を設けた指導をしていきたい。 ・資料やグラフから読み取ったことを書くことに関しては、社会科などの教科と関連を図りながら、資料を読み取る機会や読み取った内容を文章化する学習の機会を多く設けていく。
読むこと	・市の平均正答率を6.3ポイント下回っている。 ○「物語の登場人物の心情を読み取ることができる。」の校内正答率は、市の正答率を4.9ポイント上回っている。 ●「説明文の文章の内容を的確に読み取ることができる。」の校内正答率は、市の正答率を下回っている。	・物語文に関しては、国語の物語文の授業の中で、叙述からどんな心情が読み取れるかなど感想を書いたり、児童間で交流したりするなどの学習活動を、今後も続けていきたい。 ・初めて読む説明文の内容も理解できるように、普段から分からない言葉の意味調べをして語彙を豊富にする。更に、様々な文章に触れることができるよう、様々な分野の図書を読むことも推奨する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・市の平均正答率を2.5ポイント下回っている。 ○「配当漢字を読む・書くことができる。」の校内正答率は市の正答率よりやや高い。 ●言葉の学習の「三字の熟語の構成」や「敬語の使い方」の平均正答率は、市の正答率を下回っている。	・既習漢字に関しては漢字練習に取り組みせたり、小テストを行ったりして、今後も継続して理解を深めるようにする。 ・語彙力の育成として辞書の積極的な活用を行うようにする。 ・敬語の学習を普段から取り入れたり、宿題に出したりして定着を図るようにしていきたい。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	73.0	77.5	74.0
	農業や水産業	81.5	81.1	73.7
	工業生産	60.9	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	68.5	73.7	63.2
	日本の歴史	61.2	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	64.9	67.7	63.1
	観察・資料活用 の技能	74.0	77.3	75.5
	社会的事象についての知識・理解	64.2	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	・市の平均正答率を4.5ポイント下回っている。 ○「防災マップ等を参考に、自然災害がおきた際自助の大切さについて考えて表現することができる」の校内正答率は市の正答率を10.4ポイント上回っている。 ●「日本の周辺の海洋名を理解している。」の校内正答率は市の正答率を10.5ポイント下回っている。 ●「日本の周辺の国の国旗を理解している」の校内正答率は市の正答率を10.8ポイント下回っている。	・地図帳を活用し、周辺の海洋や世界の主な国の位置、日本の国土について継続的に取り扱うようにする。 ・歴史を学ぶ際には日本のどの位置にあるのかなどを確認し、地理的な要因についても同時に取り扱うようにする。 ・海洋名や国旗などは、練習問題を活用して繰り返し学習することで、知識の確実な定着を図る。
農業や水産業	・市の平均正答率とほぼ同じである。 ○「米の生産が盛んな地域について、資料を読み取ることができる」の校内正答率は100%であった。 ○農業に関する問題の校内正答率は市の正答率を超えている。 ●「日本の食料生産がかかえる課題」の校内正答率は47.8%と低くなっている。	・稲作体験などを通して、作業工程や作業を行う季節について理解を深めたいと言える。 ・水産業についても生活に関連付けて考えることができるよう、デジタル教科書等の活用を図る。 ・生産者の立場だけでなく消費者の立場の視点も持てるよう、授業の形態の工夫を図るようにする。 ・教科書や資料集を活用し、図やグラフ等の資料を読み取る機会や読み取った内容を自分の言葉で文章化する学習を多く設けていく。
工業生産	・市の平均正答率を10.2ポイント下回っている。 ●「工業地帯・工業地域の立地について、資料をもとに考えることができる」の校内正答率は市の正答率を17.7ポイント下回っている。	・基礎的な知識の定着を図ることが必要だと言える。知識の活用を図るため、資料やグラフを読み取り、考えをまとめたり、資料を活用して新聞にまとめたりするなど、思考を深める場も設ける。 ・地図帳を活用し、工業地帯・工業地域の立地について地理的な理解を図る。
情報産業や情報化社会	・市の平均正答率を5.2ポイント下回っている。 ○「マスメディアの種類について理解している」の校内正答率は、市の平均正答率を上回っている。 ●医療での情報ネットワークの利便性について、資料を読み取り考えることができる。」の校内正答率は、市の平均正答率を10.9ポイント下回っている。	・メディアの種類や身の回りのマスメディアについて、実生活に結びつけて考えることができるよう引き続き指導を行う。 ・メディアリテラシーの一環として資料から何が読み取れるのかを話し合わせることで、多様な見方や考え方があることに気付けるようにする。
日本の歴史	・市の平均正答率を8.5ポイント下回っている。 ○「条約改正について、資料を読み取り考えることができる。江戸時代の税制・身分制度について、資料を読み取り考えることができる。」の校内正答率は、市の正答率を3ポイント上回っている。 ●全般的に市の平均正答率を下回っている。 ●近代史の正答率が低くなっている。	・教科書の内容の暗記に留まることなく、背景にあった出来事や社会の情勢等も考えられるよう、歴史的事象を多面的に捉えられるような授業の展開を工夫する。 ・児童が分かったことや気付いたことを話し合ったり新聞にまとめたりする機会を意識して設定することで、各自の理解を共有し、内容を深めることができるようにする。 ・歴史教育番組などを活用し、児童の歴史への理解を深め、視聴した後に分かったことなどをノートにまとめたり、話し合ったりする場を積極的に設ける。

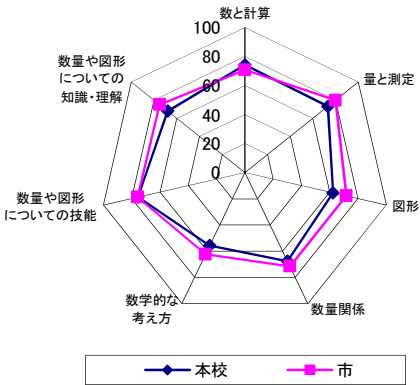
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	74.3	70.8	65.9
	量と測定	73.2	79.9	77.0
	図形	62.3	71.8	74.6
	数量関係	67.8	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	55.7	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	75.5	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	68.0	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

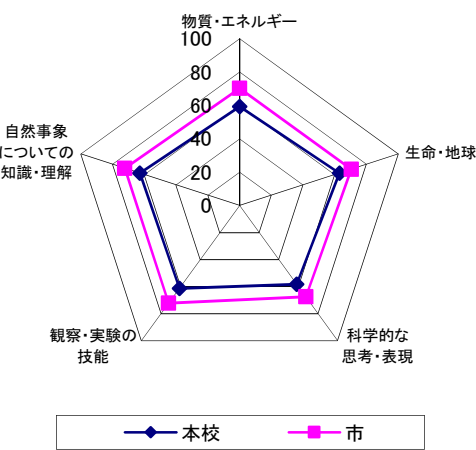
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・市の平均正答率を3.5ポイント上回っている。 ○「小数第二位÷小数第一位の計算ができる。」 「真分数＋真分数を通分する計算ができる。」 「分数×整数（約分なし）の計算ができる。」 「分数÷分数（約分あり）」の校内平均正答率は90%を超えている。 ●「分数の除法の文章問題を表した図を選ぶことができる。」の校内正答率は市の正答率を5.7ポイント下回っている。 ●「問題の場面を理解し、求めた答えが示された条件と矛盾することを説明できる」の正答率は、市を15.2ポイント下回っている。	・基本的な四則計算の計算力はある程度定着していると言えるので、今後も継続して習熟を図っていく。また、小数の計算においては、小数点をそろえることや小数点の移動など、基本的な計算の技能を確実に身に付けられるようにする。 ・整数だけでなく分数でも基準量、比較量、割合などの関係を正しく把握できるよう、図や数直線を利用したり、考えをより深めるために話し合う機会を設けたりするして、学習内容の定着を図る。 ・文章問題を解く学習では、立式の根拠を明確にし、答えの正当性について話し合う授業の展開を積み重ね、理解を深める。
量と測定	・市の平均正答率を6.7ポイント下回っている。 ○「ひし形の面積を求める式を理解している。」の正答率は市の正答率を上回っている。また、「道のりとかった時間から時速を求める式を選ぶことができる。」では校内正答率が90%を超えている。 ●「円と正方形を組み合わせた図形の面積を求める式から、その求め方を示した図を選ぶことができる。」の校内正答率は市の正答率を20.5ポイント下回っている。「三角柱の展開図を組み立てた時に重なる頂点がわかる。」では市の正答率を24.9ポイント下回っている。	・面積や体積についての基礎的な知識はある程度定着していると言える。面積と体積の違い等を含め、継続的に復習することで、定着を図る。 ・複合図形については、具体物を用いたり、言葉、式、図を用いた考えを説明する活動を多く設けたりして繰り返し指導し、図形を分割したり補完したりして考える感覚を養う。 ・体積を求める学習については、式の内容を理解して図に表す学習に繰り返し取り組ませることで、考え方の幅を広げたり深めたりできるようにする。
図形	・市の平均正答率を9.5ポイント下回っている。 ○「点対称な図形の対応する点について理解している。」では校内正答率が90%を超えている。 ●「五角形の内角の和を求める式を求める式を選ぶことができる。」では市の正答率を10.1ポイント下回っている。「合同な三角形を作図することができる。」では市の正答率を9.9ポイント下回っている。	・線対称、点対称な図形の基礎的な学習内容は定着している。 ・立体模型を使いながら学習する機会を多く設けていく。また、角柱や円柱を実際に組み立てたり、切り開いたりする活動を行うことで、立体をどのように展開図に表せるかを確認しながら指導を行い、展開図への理解を深めていく。
数量関係	・市の平均正答率を3.9ポイント下回っている。 ○「文字を使った式が表す場面を選ぶことができる。」は市の正答率を4.1ポイント上回っている。 ○「比例の関係をxyを使って式に表すことができる。」の校内正答率は100%である。 ●「2つの文字を使って表された式について、一方の文字の値から他方の文字の値を求めることができる。」は12.1ポイント下回っている。「反比例についての表を読み取り、表に当てはまる数を求めることができる。」は市を19.7ポイント下回っている。 ●「もとにする量が同じとき、割合が大きいほうが比べる量が多くなることを、具体的に説明することができる。」は、28.3%と、課題が見られる。	・文字を使って立式することや、比例の関係を式に表すこと等の基礎的な学習の定着は図られている。 ・文字や式が表している意味を理解するために、授業を展開する中でその根拠を述べたり、ノートにまとめたりする場を繰り返し設けていく。 ・資料やグラフから数量関係を読み取る際には、社会科などの他教科と関連を図りながら、数量の変化や大きさ等を正しく読み取る力の向上を図る。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	59.3	70.3	69.0
	生命・地球	62.9	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	58.2	67.5	66.4
	観察・実験の技能	61.4	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	62.8	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・市の平均を11ポイント下回った。 ○ふりこの周期とふりこの長さとの関係を問う設問や、リトマス紙の変化から該当する液体を選ぶ設問については、正答率が市の平均を上回った。 ●「物のとけ方」では、食塩を水に溶かしても全体の重さに変化はないことや、水にとけた物質を再び取り出す手順の理解について、課題が見られた。また、水溶液の複数の性質からその種類を推察する設問でも、課題が見られた。	・学習したことを定期的に振り返る場を設けたり、身に付けた知識・考え方・見方を身の回りの事象と関連付けて解説するような学習活動を取り入れたりして、確実な定着を図る。 ・一人一人が教材・実験道具を用いて主体的に観察・実験に取り組む機会を保障し、「観察・実験の技能」を身に付けるための時間を十分に確保する。 ・実験結果についてのまとめをしっかりと文章化することによって、学習して分かったことを明確に自覚できるようにし、理解を深める。
生命・地球	・市の平均を7.5ポイント下回った。 ○「人のからだのつくりと血液の流れ」では、腎臓のはたらきを問う設問で、市の平均を9.6ポイント上回った。 ●「拍動」という語句の理解が十分ではなかった。また、発芽と温度の関係を調べるための実験の条件を正しく設定する設問でも、課題が見られた。	・実験によって仮説を検証する際には、実験の計画を立てる段階での話し合いの時間を十分確保し、条件を制御して取り組むことが大切であることに気付けるように支援する。 ・理科の学習における重要な語句の定着のために、授業の中で分かりやすく説明したり、掲示物等を活用して理解を深めたりすることを、意識的に行っていく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習内容の定着と習熟に向けた指導の充実	○授業の中で、学習内容の理解状況を確認する場を設けたり、類似問題に取り組む習熟を図ったりする時間を設けている。 ○朝の学習の時間に「がっちり学習」を実施して、国語と算数の既習事項のプリント学習に取り組むことで、学習内容の定着を目指す。	・基本的な四則計算等の計算力はおおむね定着していると言えるが、学力は二極化している。 ・問題文の意味自体を読み取ることによって課題が見られ、主旨に沿った解答を導き出すことが困難な児童も見られる。
家庭学習の習慣化に向けた取組	○学年に応じた「家庭学習スタンダード」と「家庭学習ファイル」を配付し、毎日の家庭学習の内容をファイリングして積み重ねたり、「家庭学習強化週間」を設けて保護者とも共通理解を図ったりしながら、確実な習慣化を目指す。 ○自主学習の内容を見取り、適切な内容に取り組めるよう励ましたり、努力の見える取組を称賛し他の児童に紹介したりして、内容の充実に向け支援する。 ○各学期に「家庭学習強化週間」を設け、学校全体で取組を確実に推進できるようにする。	・「計画を立てて家庭学習に取り組んでいる。」の設問に肯定的回答した３年生以上の児童の割合は、85.6%となっており、家庭学習への取組はおおむね定着していると言える。しかし、その内容には、個人差が見られる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・「学習と生活についてのアンケート」の結果において、肯定的回答率が高い項目については、今後も意識の継続が図れるように指導と支援をしていく。しかし、自己評価と実態とに乖離が見受けられる状況があるため、自己肯定感をもちつつも、客観的に自分の学習や生活を振り返り、次のステップへ生かせるよう、支援していく。
- ・「自分の考えを話すこと」には、自信をもつことができるようになってきているが、「自分の考えを書くことやまとめること」については、肯定的回答率が高い反面、日常の観察では苦手意識を感じている児童も見られる。そのため、授業の中で自分の考えの根拠を明確にして書く時間を確保することや、「まとめ」の際に、児童の考えを活かしながらキーワード等を提示して各自でしっかり文章化することを、学校全体で継続して実施し、課題の解決に努めていく。
- ・読解力を高めるために、児童一人一人の読書量を増やすことや、学年にふさわしい内容の図書を読むことを推奨していくことに加え、文学以外の図書や新聞等にも児童が興味をもってふれることができるよう取組を工夫していく。